

◎ベルジピン注射液 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 ニカルジピン塩酸塩 (U) Nicardipine Hydrochloride 【分類】 Ca拮抗薬

【単位】 ◎2mg [2mL]・◎10mg [10mL] /A

【常用量】 ■手術時の異常高血圧の救急処置：2～10 μ g/kg/min で点滴静注または10～30 μ g/kg 静注

■高血圧性緊急症：0.5～6 μ g/kg/min

[ただし、原液 1.5mL/hr では下がりすぎることがあるので、通常は2mg アンプルを5倍希釈して2mL ショット、2mL/hr で持続などが選択される：状況に応じ調節]

■急性心不全（慢性心不全の急性増悪を含む）：1 μ g/kg/min [0.5～2.0 μ g/kg/min]：希釈しすぎて volume over の原因にならないように

【用法】生食または5%ブドウ糖液で0.01～0.02%（1mL当たり0.1～0.2mg）に希釈して点滴静注。緊急に原液をは静注（pHが低いので血管炎注意）

【透析患者への投与方法】減量の必要なし（3,10）

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし（3）

【特徴】主に心筋に作用するCa拮抗剤と異なり、特に血管平滑筋へのCaイオンの流入を抑制することにより血管平滑筋の緊張を緩解し、血管を拡張させる。作用は持続的で脳血管及び冠血管に選択性が高い。動脈系を拡張し、心負荷を軽減するので心不全に適用可能

【主な副作用・毒性】血液凝固障害、顆粒球減少、めまい、頭痛、顔面紅潮、動悸、頻脈、浮腫、肝障害、パーキンソン様症状、便秘、胃腸障害、頻尿、歯肉肥厚、発疹、搔痒感など

【モニターすべき項目】血圧、ECG、心拍数、肝機能、腎機能

【代謝】CYP3A4で代謝（1）代謝物のうちM-10にはニカルジピンの1/10の活性があるが血中にはほとんど存在しない（1）

【排泄】尿中未変化体排泄率1%以下（13,U）10%以下（10）代謝物を含めて28.9%が尿中に回収 [iv, 24hr まで]（1）尿中回収率60%、胆汁・糞中排泄35%（U）

【CL】10～14mL/min/kg [iv]（1）

【t1/2】0.5～2.7hr（1）【透析患者のt1/2】1hr（10）

【蛋白結合率】90%以上（1）95%以上（U）

【Vd】0.64L/kg [iv]（1）

【MW】515.99

【透析性】蛋白結合率が高いため透析されない（1）

【TDMのポイント】最低有効血中濃度5～10ng/mL。安全性が高いため、必ずしもTDMの対象にはならない【薬物動態】低用量で有効血中濃度が得られ、投与中止後速やかに血中濃度が低下する。この特徴は内科領域では欠点になるが、短時間で血圧の変動が生じる手術中は極めて調節性に富む利点となる

【効果発現時間】約1min

【効果持続時間】約60min

【備考】脳血管拡張作用があるので、頭蓋内圧亢進患者ではその増悪の危険があり避ける。静脈炎の発現率を低下させるために希釈して投与するのが望ましい。

【更新日】20220201

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。